

はじめに

平成 20 年 4 月、児童生徒の学力や学習の状況から教育及び教育施策の成果と課題を把握し、改善を図ることを目的として、全国学力・学習状況調査が行われ、本市においても、平成 19 年度に引き続き実施しました。

教育委員会としましては、平成 19 年度の調査について、「札幌市検証改善委員会」とともに、本市における調査結果の分析を行い、平成 20 年 3 月に、調査結果を踏まえた取組を推進するため、「札幌市学校改善支援プラン」や「実施報告書」、「家庭向けリーフレット」を作成し、配付しました。また、今年度は、文部科学省の「全国学力・学習状況調査等を活用した学校改善の推進に係る実践研究」の委託を受け、学校改善支援プラン等を踏まえた指導方法等の工夫改善に関する具体的な取組について実践的な研究を進めるなど、調査結果を踏まえて、本市の教育活動の充実に努めているところです。

このような中、文部科学省から提供された平成 20 年度の調査結果について、教育委員会として、平成 19 年度と同様の手法で分析を進め、平成 20 年 10 月、本市の調査結果から明らかとなった指導上の課題や改善の方向等を「札幌市の調査結果の概要」として公表するとともに、各学校に説明したところです。

その後、教科（国語、算数・数学）ごとに、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題のそれぞれについて、誤答の傾向や無解答の状況等も踏まえながら分析を行い、指導方法等の改善の方向として重要と考えられることについて検討を重ねてきましたが、このたび、それらを本実施報告書としてまとめました。

教科に関する調査の結果を見ると、札幌市の児童生徒の平均正答率は、全体的に全国とほぼ同程度の状況となっているものの、一部の教科や領域・設問において、全国と比べて下回っているものが見られます。中でも、小中学校ともに、国語における「漢字を覚え、適切に用いること」や、算数・数学における「計算の意味や仕方を理解し、正しく計算すること」など、平成 19 年度と同様の課題が見られるものがあり、また、質問紙調査では、小中学校ともに、1 日のうちの読書時間について、「全くしない」という回答が全国に比べて多いなど、学習習慣等において、平成 19 年度と同様の課題が浮かび上がっております。今後、これら学力及び学習の状況に関する課題等を踏まえた指導方法等の工夫改善について、より一層の充実に図ることが望まれます。

各学校におかれましては、平成 20 年 3 月に配付した「札幌市学校改善支援プラン」と併せて、本報告書を積極的に活用して、子どもたちの学習意欲を高め、自ら学び、自ら考える力などの生きる力を育成するために、日々の指導方法等のより一層の充実・改善を進めるようお願いします。

札幌市教育委員会

教育長 奥岡 文夫